



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

8月号—No.327  
2022.7.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【獵虎色(らっこいろ)]ラッコの体毛ような灰色がかった茶色。

英語でSea otter。和名のラッコはアイヌ語に由来するもので、海獺、獺とも書く。江戸時代から明治時代にかけては北海道にも数多く生息していたが、毛皮目的で乱獲され絶滅。現在は、絶滅危惧種に指定され、ワシントン条約により国際的な取引が禁止されているため、水族館に4頭を残すのみ。ときたま姿を現す野生のラッコがせめてもの慰めだ。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和5年度 助成要綱決定  
ステージラボ大分セッション報告

財団からのお知らせ..... 6

令和5年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施  
団体募集/令和3年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ/理事会、  
評議員会の開催結果

今月の情報..... 7

地域通信

今月のレポート..... 12

奈良県 ムジークフェストなら2022

●令和4(2022)年9月30日(金)まで申請受け付け

# 令和5(2023)年度助成要綱が決定

## 令和5年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作能力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

募集締切: 令和4(2022)年9月30日(金)

### ●地域の文化・芸術活動助成事業

#### [1]創造プログラム

##### ◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような顕著な工夫が認められる事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

##### ◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業に対して助成する事業です。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

#### [2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)に対して助成する事業です。

#### [3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)に対して助成する事業です。

●事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/docs/6850.html>

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等の取りまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ  
総務部 岩崎(亜)  
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ  
総務部 河野  
Tel. 03-5573-4056

事業名	分野	事業実施者			
		地方公共団体			指定管
		都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※) 注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)			○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)			×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム 連絡調整事業	○	○	○	○
	[3]研修プログラム			○	○
[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]地方フェスティバル事業	○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業	×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業				

## ▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

### [4] 公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設が地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を掲載した計画を策定する事業に対して助成する事業です。

### ● 地域伝統芸能等保存事業

#### [1] 地方フェスティバル事業

地方公共団体等が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業です。

#### [2] 映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業です。

#### [3] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業です。

(参考) 令和4年度

#### 「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	77	71
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	27	22
連携プログラム	42	41
研修プログラム	11	11
活性化計画プログラム	0	0
合計	157	145

(参考) 令和4年度

#### 「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	13	12
映像記録保存事業	11	11
保存・継承活動支援事業	34	33
合計	58	56

理者	特定公益法人(※) 注1	実行委員会等 注3	会場	助成措置			申請期限
				助成率	助成の上限額 (1年ごと1団体ごとの金額)	対象期間	
○	○	○		1/2以内	1,000万円	2年 もしくは3年	令和4(2022)年9月30日(金)必着
都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○					1年間		
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	1年間	
				2/3以内	100万円	事業前年1年間	
				2/3以内	200万円	1年間	
		×		2/3以内	200万円	2年以内	
○	○	○ (保存会も含む)	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	都道府県等：200万円 市区町村等：50万円		
				2/3以内	200万円	1年間	
×	×	×		1/2以内	30万円		

左表脚注

※特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。  
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。  
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1  
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付。

注2  
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成。

注3  
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額が助成対象。

## ●ステージラボ大分セッション

# 大分では20年ぶりにステージラボを開催

## ステージラボ 大分セッション 報告

2022年7月5日～8日

### 写真

左上: ホール入門コース「新しい視点で街を見てみよう」(大分県議会議場を訪問)

右上: 自主事業コース「ムジタンの地域活動紹介と体験」

左下: 修了式で森下真樹さん、酒井雅代さんと自主事業コース受講生がiichiko音の泉ホールで『悲愴』をサブライズで披露

右下: 公立ホール・劇場マネージャーコースのグループワーク

### ●コースコーディネーター

#### ◎ホール入門コース

花田和加子

(ヴァイオリニスト/地域創造おんかつコーディネーター)

#### ◎自主事業コース

別府一樹

(日本フィルハーモニー交響楽団 事務次長兼音楽の森部長)

#### ◎公立ホール・劇場マネージャーコース

松浦茂之

(三重県文化会館 副館長兼事業課長)

### ●コースサブコーディネーター

#### ◎ホール入門コース

黒田麻紀子(公益財団法人静岡県文化財団 文化事業課企画制作グループ チーフスタッフ)

### ●「ステージラボ」に関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・梅村

Tel. 03-5573-4183

### \*ムジタンツ

ドイツ語の「Musik(音楽)」と「Tanz(ダンス)」を組み合わせた造語。クラシック音楽と身体を使った「あそび」と「まなび」のワークショップ。



今年度は通常通り年2回開催となったステージラボ。前期の「大分セッション」が大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)で開催されました。コースはホール入門、自主事業、公立ホール・劇場マネージャーの3コースで、いずれも初めてのコーディネーターが担当し、フレッシュな交流を実現しました。

## ●アーティストの創作プロセスを共有する ～自主事業コース

自主事業コースのコーディネーターは、日本フィルハーモニー交響楽団事務次長兼音楽の森部長の別府一樹さんです。日フィルではワークショップの先進国である英国からマイケル・スペンサーさんを指導者として招き、長年にわたって子どもたちを対象にした体験型の音楽創造ワークショップを推進してきました(音楽の森)。別府さんは実践者として関わるとともに、東日本大震災以降は、10年間で300回以上という楽団員による被災地へのアウトリーチ活動を主導してきました。今回は、アーティストの創作プロセスを受講生と共有し、ベートーヴェンの『悲愴』第1楽章を音楽とダンスで表現するという挑戦的なカリキュラムとなりました。

講師兼アーティストとして関わったのは、東

京藝術大学の公開講座から始まったアートプログラム「ムジタンツ」(\*)のメンバー、酒井雅代さん(ピアニスト)と山崎朋さん(ダンサー)、そして別府さんが被災地支援で知り合った森下真樹さん(ダンサー)です。また、森下さんと同じ被災地支援仲間の坂田雄平さん(宮古市民文化会館プロデューサー)も講師兼ファシリテーターとして参加しました。

宮古市民文化会館では、震災を踏まえ、「人のつながりを取り戻し、まちの魅力を引き出し、未来を担う人づくりを行う」運営を目指してアーティスト・イン・レジデンス事業をスタート。その問題意識を学ぶディスカッションの間に挟みながら、参加アーティストを理解するワークショップと対話、ベートーヴェンについてのリサーチと議論など深く作品に入り込み、5時間をかけてパフォーマンスづくりに挑戦。発表では、酒井さんの弾くピアノの音と連なって森下さんや受講生の身体が共鳴し、市井の人々が抱えるそれぞれの「悲愴」が立ち現れていました。

最終日の振り返りでは、「ちりばめられた点が線に繋がる瞬間に立ち会って、事業はこうやってつくっていくんだと腑に落ちた」「アーティストと対話をしながらやるとこんなにワクワク感が生まれるんだと感じた」「行政職からホール

## ▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

職員になり、常に自信がない状態だったが、専門家の力を借りればいいんだというぶつかり合う勇気をもらえた」と思いが溢れていました。

### ● おんかつの知見を共有する～ホール入門コース

2010年から公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)コーディネーターを務める花田和加子さんが初めて担当したホール入門コースでは、地域において公共文化施設が果たすべき役割を「アウトリーチ」という手法をテーマに検証しました。まずはセレノグラフィカによる小学生向けのアウトリーチを実体験。そして、さまざまな工夫を凝らして音楽・演劇事業を展開しているサザンクス筑後の久保田力さんに公共文化施設職員としての「基本の基」を語っていただいた後、地域のアーティストを活用してアウトリーチ事業を展開している幸田町文化振興協会、iichiko総合文化センター、静岡グランシップの先輩たちから経験談をヒアリング。その後、大分の街に出て、アウトリーチの候補会場として大分県立図書館、大分県議会議場、城址公園、鉄道跡を細長く広場にしたり「線路敷ボードウォーク広場」を視察。企画づくりの基本である「5W1H(いつ、どこで、誰に向けて、何を、何のために、どうやるか)」を踏まえ、グループに分かれてアウトリーチの企画案を組み立てました。

「普段静かな図書館に通い、辛いさまざまな障がいをもった子どもたちに、音で本の世界を楽しんでもらえるきっかけに」と県立図書館のエントランスホールの高い天井に絵本を投影して行う絵本コンサート。「ホールと図書館の複合施設が増えているので、いい連携企画になる」と好評でした。県議会議場には、18歳選挙権を踏まえ、高校生が選挙をテーマに演劇づくりを行い、それを議場で議員向けに発表する、複数のワークショップから成るアウトリーチ企画を提案。ボードウォーク広場では周辺に学校が多いことを踏まえた誰もが参加出来る「あつまれ!放課後DANCE★CREW」企画など、地域や社会の課題を踏まえたアイデアが溢れていました。

### ● 実践者と意見交換～公立ホール・劇場マネージャーコース

マネージャーコースのコーディネーターは、20年以上にわたって三重県文化会館の現場で奮闘してきた副館長兼事業課長の松浦茂之さんです。松浦さんは、社会や劇場の課題に向き合い、財団改革や街なかのレストランで料理と演劇を楽しむ「MPAD」、若手演劇人が滞在制作・公演する「Mゲキセレクション」、「介護を楽しむ 明るく老いる アートプロジェクト」などを立ち上げ、積極的に発信してきたオピニオンリーダーです。

今回は、地域での実践者(宮崎県の三股町立文化会館を拠点に町とともに「みまた演劇フェスティバル『まちドラ!』」を展開している劇団こふく劇場代表・永山智行さん、公立ホールの指定管理会社・民間小劇場・フェスティバルディレクター・沖縄と信州のアーツカウンシルなど文化振興と多面的に関わってきたドラマトルク・野村政之さん)と受講生が少人数に分かれて半日かけて議論。副館長の松浦さんに三重県文化会館の自主事業を見直したランドデザインを提案するというものでしたが、三重県の統計も踏まえた鋭い指摘と意欲的な提案が続き、松浦さんも脱帽していました。

### ステージラボ大分セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	開講式 / オリエンテーション		
7月5日	「百聞は一見に如かず:まずは体験してみよう!」 セレノグラフィカ	「アーティストとの協働から考える事業企画の未来&うずうず発散!ダンスワークショップ」 別府一樹、森下真樹ほか	「まずは自己紹介から始めよう!」 「劇場を取り巻く経営環境について考えよう!」 松浦茂之
	「アーティストの本音を聞いてみよう!」 セレノグラフィカ、花田和加子		「グループワーク① 劇場の提供するサービスを考えてみよう!」 松浦茂之
7月6日	「地域に愛されるホール作り:地域と向き合うとは?」 久保田力	「ムジタンツの地域活動紹介と体験」 ムジタンツ	「地域に合った文化振興の事例を学ぼう!①」 永山智行 「地域に合った文化振興の事例を学ぼう!②」 野村政之
	「アウトリーチの可能性について①」 黒田麻紀子、金澤大介、植田理沙、花田和加子	「各地域の課題共有とプログラムづくりのためのディスカッション」 別府一樹、坂田雄平 「プログラム作り①」 ムジタンツ、森下真樹	「劇場の自主事業をランドデザインしてみよう!」 松浦茂之 「グループワーク② 劇場の自主事業をランドデザインしてみよう!」 松浦茂之、永山智行、野村政之
共通プログラム「音楽と美術の融合ワークショップ「音を描く、絵を奏でる」」 榎本寿紀、鈴木広志、小林武文、中島さち子			
7月7日	「アウトリーチの可能性について②」 花田和加子、久保田力	「アーティストと公共ホールの共創を考える」 坂田雄平	「グループワーク②の発表と振り返り」 松浦茂之
	「新しい視点で街を見てみよう」 花田和加子、黒田麻紀子	「プログラム作り②」 ムジタンツ、森下真樹	修了式
「企画してみよう」 花田和加子、黒田麻紀子	「プログラム発表・体験とディスカッション」 別府一樹		
7月8日	「夢を語ろう!」 花田和加子、黒田麻紀子	「振り返りと感想のシェア、自由な議論」 別府一樹ほか	
	修了式		



共通プログラムでは、iichiko総合文化センターの向かいに立地し、同じ公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が指定管理する大分県立美術館の榎本寿紀さんが登場。センターのメインエントランスで4階まで吹き抜けになっている巨大アトリウムを使い、ミュージシャン(鈴木広志、小林武文、中島さち子)と共に音楽を聴きながら10×8.8メートルの巨大な紙に自由に描くワークショップ「音を描く、絵を奏でる」を行いました。

## ▼一 財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●令和5年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

**募集締切:2022年9月22日(木)必着**

#### ◎対象団体

次に掲げる①または②に該当する団体であって、本事業を実施していない団体、かつ、原則として令和3年度または令和4年度にダン活を実施した団体

①ダン活のAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作・公演プログラム)、Cプログラム(公演プログラム)のすべてを実施した地方公共団体等

②ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

#### ◎対象アーティスト

公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(24組)

#### ◎支援内容

以下の①②に係る経費の1/2以内の額を1年間のみ助成します。

##### ①対象アーティスト等派遣経費

対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等(助成対象上限あり)、交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料

##### ②公演負担金

公演実施に係る経費(助成対象上限あり)

※詳細については実施要綱をご確認ください。



令和3年度 神戸市での公演の様子(山猫団「第四回 新開地カブキモノ大興行 本公演」/アーティスト:長井江里奈) ©新田さやか

### ●令和3年度事業報告書 ホームページ公開のお知らせ

令和3年度の各事業報告書を当財団ホームページで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロード可能です)。

・「財団のご案内」→「事業報告書・事業計画書等」

<https://www.jafra.or.jp/about/report.html>

地域創造が運営しているホームページは、地域の文化・芸術に関する情報をより広く提供することを目的に、当財団の概要・事業紹介のほか、地域創造レターや調査研究報告書を掲載し、地域の最新の動向・活動等をお伝えしています。また各事業の実施要綱や申請書、様式をダウンロードすることもできます。

地域における文化・芸術活動の情報収集、公立文化施設の活性化や芸術環境づくりにぜひ活用ください。

### ●理事会、評議員会の開催結果

第143回理事会(6月6日開催)および第98回評議員会(6月21日開催)の決議により、令和3年度決算、事業報告および公益目的支出計画実施報告が承認されました。

第98回評議員会では、任期満了に伴い理事12名、監事2名および評議員11名の選任が行われ、渡辺弘理事が新たに選任されました。なお、永井多恵子理事は、任期満了に伴い6月21日をもって退任されました。また、第144回理事会(6月22日開催)の決議により、山本理事が理事長として選定(再任)されるとともに、有岡理事が常務理事として選定(再任)されました。

※財務諸表、事業報告および役員等の一覧は当財団ホームページに掲載しております。

●令和5年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」の実施要綱・申込書等は、当財団ホームページに掲載しています。

<https://www.jafra.or.jp/project/dance/02.html>

◎申し込み・問い合わせ

芸術環境部 岸

Tel. 03-5573-4075

[dankatsu@jafra.or.jp](mailto:dankatsu@jafra.or.jp)

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

●地域通信欄掲載情報について  
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方  
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック  
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先  
ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 梅村・矢嶋

●2022年10月号情報締切  
8月25日(木)

●2022年10月号掲載対象情報  
2022年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

### 北海道・東北

#### ●北海道旭川市

北海道立旭川美術館  
〒070-0044 旭川市常磐公園内  
Tel. 0166-25-2577 佐藤由美加  
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/abj/>

#### 開館40周年記念 旭川の美術100年

旭川市市制100年と開館40周年を記念し、旭川の美術史を回顧する。第一部では絵画を中心に、旭川の画会や公募展を足がかりに道内外で活躍した作家の作品を所蔵品などから紹介。第二部では、中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館の所蔵品と当館の彫刻の名品を紹介する。道内の美術館等が連携し、各々の施設や所蔵品を相互に紹介する「アートギャラリー北海道」事業の一環として開催。  
[日程]7月9日～9月4日  
[会場]北海道立旭川美術館

#### ●青森県青森市

青森公立大学 国際芸術センター青森  
〒030-0134 青森市大字合子  
沢字山崎152-6  
Tel. 017-764-5200 慶野結香  
<https://acac-aomori.jp/>

#### 景観観察研究会「八甲田中学校」

絵画や版画、写真、フィールドワークを基にした活動などを行うアーティスト(OJUN、板津悟、新津保健秀、山本修路)と、寄生虫学や森林生態学を専門に自然をフィールドとする研究者から成るコレクティブ「景観観察研究会(景観研)」が、八甲田連峰の麓にある同館で、地域のリサーチにより着想した作品等の展示や公開制作、ワークショップ、レクチャーなど、連日多彩なプログラムを開催する。  
[日程]7月16日～9月25日  
[会場]青森公立大学 国際芸術センター青森

#### ●岩手県久慈市

久慈市文化会館  
〒028-0051 久慈市川崎町17-1  
Tel. 0194-52-2700 石原登納  
<https://ahall.city.kuji.iwate.jp/>

#### 久慈・ベートーヴェン交響曲連 戦演奏会Vol.4

永峰高志芸術監督監修によるベートーヴェンにスポットを当てたコンサートシリーズ。今回は「ベートーヴェンの生涯最大の成功!」をテーマにした特別演奏会。現在最も人気のある交響曲第7番のほか、三重唱曲『おののけ、不実な子ども』Op.116を久慈市ゆかりの音楽家である田村洋貴(バリトン)らを迎え披露する。演奏会前日には、茂木大輔(指揮)のプレトークや仙台フィルハーモニー管弦楽団の公開リハーサルを見学することができる。  
[日程]8月28日  
[会場]久慈市文化会館アンバーホール



久慈・ベートーヴェン交響曲連戦演奏会 Vol.3 (2019年6月)

#### ●岩手県釜石市

釜石市民ホールTETTO  
〒026-0024 釜石市大町1-1-9  
Tel. 0193-22-2266 阿部美香子  
<https://tetto-kamaishi.jp/>

#### art at TETTO vol.5

#### 「色を聴く」小野寺浩

art at TETTO(アート アット テット)は、釜石・大槌在住の作家の作品展示と、ワークショップを組み合わせたシリーズ。Vol.5は色鉛筆画家の小野寺浩(ゆたか)の作品を紹介する。各回定員5名の事前申込制で、作家と直接交流できる塗り絵

体験を開催。作家愛用のパステルと色鉛筆の画材で描くときの音を聴くと、作品をさらに楽しむことができる。

[日程]7月29日～8月7日

[会場]釜石市民ホールTETTO



vol.3 小笠原梓「イロトイロ」ワークショップの様子

#### ●宮城県塩竈市

塩竈市杉村惇美術館  
〒985-0052 塩竈市本町8-1  
Tel. 022-362-2555 阿部沙斗加  
<http://sugimurajun.shiomo.jp/>

#### 若手アーティスト支援プログラム Voyage2022

鈴木史 個展「Miss. Arkadin」  
工藤玲那 個展「アンパブリック  
マザーアンドチャイルド」

これからの活躍が期待される若手アーティストに新たなステップを提供することを目的に、展覧会を中心に多様な表現の機会を設ける事業。8回目となる今回は、公募により選考された県内出身の鈴木史(映画監督・美術家・文筆家)と工藤玲那(ビジュアルアーティスト)の個展を開催する。会中には鈴木史の作品の上映会や、工藤と共同制作を行った母・リャンによる焼き鳥を焼くパフォーマンスなどが行われる。

[日程]7月16日～9月4日

[会場]塩竈市杉村惇美術館



工藤玲那《無題》

## 関東

### ●群馬県桐生市

桐生市スポーツ文化事業団  
〒376-0024 桐生市織姫町2-5  
Tel. 0277-40-1500 牧島史明  
<http://www.kiryu-piif.jp/>

### 日本のアーティストシリーズ 2022-2023 lalala camarade

地元ゆかりのある演奏家たちがトリオやカルテットを組み、1年間にわたって6つのプログラムをお届けするコンサートシリーズ。8月に開催される第2弾では、コントラバス・カルテット「lalala camarade」が登場する。また、群馬交響楽団のメンバーを講師に迎えて、中学生向けの金管クリニックや、小学校へのアウトリーチも行われる。  
[日程]8月3日  
[会場]美喜仁桐生文化会館

### ●埼玉県所沢市

所沢市文化振興事業団  
〒359-0042 所沢市並木1-9-1  
Tel. 04-2998-7777 村松佳祐  
<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>  
夏休み! 所沢ミュージズ “とことこ” 体験ツアー

小学生・中学生を対象とした、約2時間のホール探検ツアー。一流のアーティストも使った舞台・楽屋の案内、普段は見ることのできない照明装置の操作体験のほか、第4代所沢ミュージズ・ホールオルガニストの原田真侑・三原麻里による日本最大級のパイプオルガンの解説とミニ・コンサートを開催。実際にパイプオルガン演奏を体験することができる。  
[日程]8月11日  
[会場]所沢市民文化センターミュージズ

### ●埼玉県富士見市

(公財)キラリ財団  
〒354-0021 富士見市大字鶴馬1803-1

Tel. 049-268-7788 中出千尋  
<https://www.kirari-fujimi.com>

### 「モガ惑星～宇宙は遠い記憶のおんがくかい」(ドーシでもソラミミ編)

7つの惑星を大編成のオーケストラによって壮大に描く、ホルスト作曲の組曲『惑星』を主題に、キラリふじみ芸術監督・白神ももこの総合演出により、開館20周年に向けて2年にわたり上演する音楽会の後編。宮崎県を拠点に活動する“こふく劇場”の永山智行のテキストによって、人の声や動き、ダンス、楽器の響き、振動、光など多彩な表現方法で、宇宙の音を響かせる。  
[日程]8月27日、28日  
[会場]富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

### ●千葉県旭市

千葉県東総文化会館  
〒289-2521 旭市ハの666  
Tel. 0479-64-2001 伊藤奈緒美  
<https://www.cbs.or.jp/toso/>

### 知って!感じて!ホールのピアノ～ピアノの魅力を発見しよう～

東総文化会館が保有する世界三大ピアノの内の2台、スタインウェイ(ドイツ)とベーゼンドルファー(オーストリア)の魅力を紹介する。講師には国内外で活躍する地元旭市出身の實川風と實川飛鳥を迎え、周辺地域でピアノを習う子どもたちに向け公開レッスンを行う。ミニコンサートでは2台のピアノの音色や響きの違いを感じることができる。  
[日程]8月11日  
[会場]千葉県東総文化会館

### ●横浜市

横浜市磯子区民文化センター  
〒235-0033 横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田4F  
Tel. 045-771-1212 松井真理子  
<https://www.sugigeki.jp/>

### 杉劇夏まつり2022

コロナ禍になって3年ぶりに開催する年に一度の劇場オープンデー。活動の場が減ったアーティストや団体に発表や活動の機会を提供し、応援の輪を広げる。高田匡隆(ピアノ)と石川祐支(チェロ)をゲストに迎え、世界に羽ばたいた地元ゆかりの演奏家たちによるコンサートを開催するほか、アートワークショップや、地元劇団「横綱チュチュ」によるパフォーマンスで会場を盛り上げる。

[日程]8月27日  
[会場]横浜市磯子区民文化センター杉田劇場



昨年の杉劇夏まつりの様子

### ●神奈川県鎌倉市

神奈川県立近代美術館  
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1  
Tel. 0467-22-5000 初山・八木  
<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/annex>

### これってさわれるのかな? —彫刻に触れる展覧会—

子どもたちにも美術館をより楽しんでもらうため、普段は保存などの観点から触れることのできない彫刻作品に触れることができる展覧会。金属や木、陶、石など、多様な素材でつくられた作品の質感や温度から伝わる新鮮な感覚を楽しんでもらう。展示作品は、壊れにくい素材かつ安定感のあるフォルムのもを所蔵品から24点厳選し、低めの展示台に固定するなどの工夫をしている。  
[日程]6月11日～9月4日

[会場]神奈川県立近代美術館鎌倉別館

### ●神奈川県平塚市

平塚市美術館  
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3  
Tel. 0463-35-2111 安部沙耶香  
<https://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/index.html>

### 気になる!大好き!これなあに? 子どもたちのセレクション

乳幼児と美術作品との出会いの場を提供し、親子のコミュニケーションを図ることを目的に企画した展覧会。過去に実施した親子鑑賞ツアーなどで子どもがどの作品にどのような反応を示したのかを保護者が記録し、現在までに参加した約1,000人分の記録を分析。特に興味や反応を示した所蔵品28点を子どもたちや保護者のコメントとともに紹介する。

[日程]7月2日～9月19日  
[会場]平塚市美術館



林敬二《貌の遠近法》(2007年)

## 北陸・中部

### ●新潟県柏崎市

柏崎市文化会館アルフォーレ  
〒945-0054 柏崎市日石町4-3-2  
Tel. 0257-21-0010 栗林里帆  
<https://www.artforet.jp/>

### 夏休み親子でおでかけ!ファミ

リークラシックwith金子三勇士  
クラシックをもっと身近に感じてもらおうと企画された、大人も子どもも楽しめるクラシックコンサート。映画『蜜蜂と遠雷』で主人公の一人「マサル」のピアノ

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

演奏を担当し、2021年に日本デビュー10周年を迎えたピアニスト・金子三勇士がクラシックの名曲をお届けする。午前・午後の2部構成で午前の部のみ3歳から未就学児も入場可。

[日程] 8月7日

[会場] 柏崎市文化会館アルフォーレ

### ●石川県金沢市

いしかわミュージックアカデミー実行委員会  
〒920-8580 金沢市鞍月1-1  
Tel. 076-225-1372 松本季実  
<http://ishikawa-ma.jp/>

### いしかわミュージックアカデミー 2022 講師によるコンサート

1998年に始まり、今年で24回目となる「いしかわミュージックアカデミー(IMA)」(8月17日～26日)では、プロを目指す若手音楽家を対象としたマスタークラス、石川県在住・出身者を対象とした基礎クラスの公開レッスンや、地域音楽交流として受講生のミニコンサートを開催している。期間中の21日に、IMA音楽監督の原田幸一郎をはじめ室内楽を知り尽くしたIMA講師陣による特別コンサートをお届けする。

[日程] 8月21日

[会場] 石川県立音楽堂



2019年ヴァイオリンコースのレッスンの様子(左が原田幸一郎)

### ●岐阜県岐阜市

サラマンカホール  
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53  
Tel. 058-277-1113 金子根古  
<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

### 星降る夜のミュージカルパティー

岐阜出身の女性アーティスト、日比野景(ソプラノ)、田島聖子(メゾソプラノ)、松尾志穂子(パーカッション)、李仁香(ピアノ)によるドラマ仕立てのコンサート。寝苦しい夏の夜に、オンラインのお喋りで盛り上がる彼女たち4人のストーリーを軸に、ミュージカルやオペラ、映画の名曲をお贈りする。ミュージカルの源流や歌う言語による違いにもふれられる充実した内容となっている。

[日程] 8月23日

[会場] サラマンカホール

### ●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム  
〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋1329-1  
Tel. 0574-28-1110 岩屋孝志  
<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/index.cfm>

### ハコ展～箱膳から「ハコモノ」まで

私たちの身の回りのあらゆる場面で存在する「箱」。人類最大の発明であるともされる、さまざまな素材やかたち、用途や機能をもつ箱の世界を紹介する。また、「ハコモノ」といわれる博物館と、その内部で用いられているさまざまな「箱」を紹介しながら、美術館は情報集積やインターフェイスの「ハコ」という観点から、これからのミュージアム像に思いを馳せる。

[日程] 7月16日～8月28日

[会場] 美濃加茂市民ミュージアム

### ●名古屋市

愛知県芸術劇場  
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2  
Tel. 052-211-7552 水野学  
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>  
**THE オルガンNIGHT & DAY2022**  
「ワンコイン」「出かけやすい時

間」「短めのプログラム」をコンセプトにした、初心者向けのパイプオルガンコンサート。NIGHT(夜公演)とDAY(朝・昼公演)で時間帯を分け、違った雰囲気を楽しむことができる。NIGHTは高校生以上、DAYは幼児から子どもを推奨としており、一部の公演の終演後には「オルガン耳より講座」を開催し、オルガンの魅力に迫る。

[日程] 8月26日、27日

[会場] 愛知県芸術劇場コンサートホール

### 近畿

#### ●京都市

京都府立堂本印象美術館  
〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3  
Tel. 075-463-0007 松尾敦子  
<https://insho-domoto.com/>

### 旅する印象—画家が見つめた、ひと・町・自然—

堂本印象の、1人の作家とは思えない表現の幅広さに着目した展覧会。印象の表現は、日本や東洋の古典芸術を基に、西洋画の手法を取り入れた具象絵画から抽象絵画へと幅広い展開を遂げている。本展では、30歳代前半の印象が描いた中国風景の作品も展示し、熟達した境地の戦後の作品と若手画家時代の大正ロマン漂う作品をそれぞれ楽しむことができる。

[日程] 6月25日～9月25日

[会場] 京都府立堂本印象美術館

#### ●大阪府枚方市

枚方市総合文化芸術センター  
〒573-1191 枚方市新町2-1-60  
Tel. 072-845-4910 三島亜由美  
<https://hirakata-arts.jp/>

アーツプラウトシリーズ  
パフォーミングアーツVol.6  
ダンス 市川まや×生演奏 pan  
na cotta コンテンポラリー  
ダンスを生演奏で楽しもう♪

枚方市の「アーティストバンク」に登録している、市ゆかりの実力ある若手アーティストたちに実践の場を提供し、次世代の芸術家と市民の「出会いの芽」を生み出す「アーツプラウトシリーズ パフォーミングアーツ」。昨年度から始まり、6回目を迎える今回はコンテンポラリーダンスの市川まやとフルート&クラリネット&ピアノトリオ panna cottaがダンスと生演奏のセッションを披露する。

[日程] 8月10日

[会場] 枚方市総合文化芸術センター別館 メセナホール

#### ●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団  
〒586-0016 河内長野市西代町12-46  
Tel. 0721-56-6100 守谷有加  
<https://lovelyhall.com/>

### ラブリーホール・オリジナル・ ミュージカルvol.11 『OZ オズの魔法使い』

2007年にスタートし、小学4年生から20歳代まで54人が在籍する「ラブリーホール・ミュージカルスクール」。多くの人に感動してもらえるミュージカルを河内長野で創造し、全国に向け発信することを目標としている。今回は演出に大塚雅史を迎え、作曲家サキタハヂメによるほぼ全曲書き下ろしのオリジナル楽曲で『オズの魔法使い』を上演する。

[日程] 8月7日

[会場] ラブリーホール



vol.10「銀河鉄道と優しい夜」(2021年8月)

## ●神戸市

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇  
浜海岸通1-1-1

Tel. 078-262-1011 江上ゆか

<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### 兵庫県立美術館開館20周年 関西の80年代

前身の兵庫県立近代美術館時代に開催されていた1980年代のシリーズ展「アート・ナウ」では、「関西ニューウェーブ」として当時注目を集めていた若手作家たちによる鮮烈な作品が続々と現れた。本展ではこうしたストレートなパワーに満ちた作品群を一堂に紹介することで、現在にまで引き継がれるさまざまな表現語彙の原点がここにあることを示し、困難な現代を生きる観客に芸術のポジティブな力を発信する。

[日程] 6月18日～8月21日

[会場] 兵庫県立美術館

## ●兵庫県西宮市ほか

西宮市フレンテホール

〒662-0911 西宮市池田町11-1  
フレンテ西宮5F

Tel. 0798-32-8660 衣川絵里子

<https://frentehall.jp/>

### おなかをすかせた真夜中のファンタジー『キッチン』

ドイツ在住の音楽家・高瀬アキと神戸出身の舞踊家・岡登志子が、音楽とダンスをミックスして創り上げるパフォーマンス公演。お腹をすかせてキッチンにまぎれ込んだ女の子の一夜のファンタジーを、ピアノとダンスとコーラスを交えて描く。イタリアの音楽家トリオや個性豊かなダンサーと共に、公演前に行われる「リズムとダンスのワークショップ」に参加した小学生の出演も予定。

[日程・会場] 8月13日、14日：西宮市フレンテホール／8月16日：姫路キャスパホール／8月21日：

サントミューゼ(上田市交流文化芸術センター)／8月27日：豊岡市民プラザ

## ●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ

〒668-0031 豊岡市大手町4-5  
アイティ7F

Tel. 0796-24-3000 野村聡子

<http://www.platz-npo.com/>

### 市民演劇プロジェクト2022

#### 『新しい涙』

劇作家・演出家の内藤裕敬を作・演出に迎え、2016年から市民とプロの俳優が共演する演劇プロジェクトを続けてきた市民プラザ。昨年度からはさらに地域に密着した企画として、OMS戯曲賞受賞作家が豊岡にちなんだものを題材とした新作を書き下ろし、内藤が演出する市民参加型演劇プロジェクトを始動。第2弾となる今回はごまのはえ(ニットキャップシアター)が作品を書き下ろし、オーディションで選ばれた20～60歳代の市民14人が参加する。

[日程] 9月3日、4日

[会場] 豊岡市民プラザ



昨年度公演「村を育てる」(作：高橋恵(虚空旅団)、演出：内藤裕敬)

## 中国・四国

## ●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町  
101-5

Tel. 0857-21-8700 内田誠

<http://www.torikenmin.jp/>

### U-18シアタープロジェクトAct2

#### 『捨てきれないもの』

鳥取県内の18歳以下の若者が書き上げた戯曲を、同じく18歳

以下のキャストが演じる演劇公演企画。青年座の宮田慶子の監修・演出、演劇集団キャラメルボックスの岡田達也の客演によるもの。第2弾となる今回は2020年6月から約2年の時間をかけて創り上げた、若者の「今」が詰まった作品を再び届ける。

[日程] 8月6日、7日

[会場] とりぎん文化会館

## ●島根県浜田市

浜田市世界こども美術館

〒697-0016 浜田市野原町

859-1

Tel. 0855-23-8451 糸川孝一

<https://www.hamada-kodomo-art.com/>

### 川とあそぶアート展

アートを通し、楽しみながら川の大切さ、自然環境について思いを巡らせる展示会。廃材ダンボールや漂流物などを使用した廃材アートや、展示室壁面を浜田川に見立てたインスタレーション作品など、川をテーマに6組のアーティストが制作した作品を紹介。作品をみるだけでなく、触ったりつくったりして、アートが楽しめる。

[日程] 7月9日～9月25日

[会場] 浜田市世界こども美術館



淀川テクニク《自転車チヌ》  
©淀川テクニク

## ●山口県美祿市

秋吉台ミュージックアカデミー実行委員会

〒664-0881 兵庫県伊丹市昆陽2-1199

Tel. 072-781-8087 永澤学

<https://akiyoshidai-music-academy.com/>

### AMA10周年特別企画シリーズ 第3弾 ピアノ×秋吉台ミュージック・アカデミー

秋吉台ミュージック・アカデミー(AMA)にピアノクラスが開講して10周年を記念するガラ・コンサート。アカデミー自体は今年が14回目の開催となり、10周年を迎えるのはフルート、ギターに続き3コース目となる。8月3日～19日に開講されるアカデミーに合わせて開催され、ピアノクラス講師の菊地裕介が、ヴァイオリン、チェロ各クラスの講師と共演し、ベートーヴェンの名作を披露する。

[日程] 8月11日

[会場] 秋吉台国際芸術村コンサートホール

## ●徳島県那賀町

相生森林美術館

〒771-5411 那賀町横石字大  
板34

Tel. 0884-62-1117 東浦博史

<https://www.town.tokushima-naka.lg.jp/aioi-art/>

### 相生森林美術館企画展

#### 『西村繁男 絵本原画展』

相生森林美術館では毎年夏休みに合わせて絵本の原画展を行っており、今年は、広島原爆の悲惨さを描いた『絵で読む 広島原爆』から、おばけが鉄道に乗って旅をする『おばけでんしゃ』まで多様な作品を手掛ける高知県出身の作家・西村繁男を取り上げる。絵本作家としての活動と併せて、長年にわたり携わった神奈川県藤野(相模原市)での地域ぐる



西村繁男『ようちえんがばけますよ』(2012年) ©Shigeo Nishimura

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

みの芸術文化活動についても紹介する。

[日程] 7月16日～9月11日

[会場] 相生森林美術館

### ●香川県高松市

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5-5

Tel. 087-822-0002 田口慶太

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuuseum/kmuseum/index.html>

#### せとうちの大地 美術の視点

香川県出身またはこれまで瀬戸内を活動の拠点とした経験のある10人の作家が、美術にまつわるさまざまな視点から瀬戸内をテーマに制作した作品を展示する。美術家や写真家、映像作家、デザイナー等が、それぞれの表現方法で瀬戸内の魅力を引き出す。関連イベント「ラウンドトーク」は、一般参加者と作家が同じ輪の中に入って話題を共有することができる双方向型で開催される。

[日程] 8月5日～9月4日

[会場] 香川県立ミュージアム

### ●愛媛県松山市

愛媛県美術館

〒790-0007 松山市堀之内

Tel. 089-932-0010 石崎三佳子

<https://www.ehime-art.jp>

#### みる冒険 ゆらぐ感覚

愛媛県美術館では、視覚だけでなく、触覚や聴覚、対話などで作品にアプローチすることを試みることで、これまで意識していなかった感覚の領域にふれ、鑑賞者が「みること」を再考する展覧会やプログラムを継続的に実施している。本展では、光島貴之の触って鑑賞することができる作品と、八木良太の音を用いた作品を中心に、収蔵作品を交えて、感覚を揺さぶる作品を紹介する。

[日程] 8月6日～9月30日

[会場] 愛媛県美術館

### 九州・沖縄

#### ●熊本市

熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1

Tel. 096-363-2235 前川史

<https://www.keengeki.or.jp/>

#### ホワイエサロンコンサートVol.2

##### 藤原道山

コンサートホールホワイエを会場とした「ホワイエサロンコンサート」シリーズ。2回目は幅広い活躍でおなじみの尺八演奏家・藤原道山が登場。青山政憲(ピアノ)と共に、古典やジャズ、藤原のオリジナル曲と幅広いプログラムをお届けする。ホワイエに映る鮮やかな木々とともに、尺八とピアノがつくり出す唯一無二の響きを楽しめる。

[日程] 8月27日

[会場] 熊本県立劇場



ホワイエサロンコンサートvol.1の様子

#### ●大分県大分市

大分市美術館

〒870-0835 大分市大字上野865

Tel. 097-554-5800 大神健二

<http://www.city.oita.oita.jp/bunkaports/bunka/bijutsukan/index.html>

#### アート・ワンダーランド2022

##### 怖じいーこわ〜い美術館ー

「美術がより親しみのあるもの」になることを目的とした夏休みの特別企画「アート・ワンダーランド」。20年目の今回は美術館全館を挙げて「怖(お)じい」(大分弁で「怖い」)をテーマに厳選した所蔵品と、大分県内で活動する作家の作品を紹介する。会期中には地元愛好家が創造

したご当地怪獣「大分怪獣ブゴン」とのふれあい撮影会や、工作教室「パックパック怪獣を作ろう!」なども開催。

[日程] 7月14日～9月19日

[会場] 大分市美術館



ゴヤ《「ロス・カプリチオス」より チンチーリャ鬼ども》(1855年頃)

#### ●宮崎県都城市

都城市立美術館

〒885-0073 都城市姫城町7-18

Tel. 0986-25-1447 浅野文香

<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/artmuseum/>

#### 夏休み企画〈入門〉アートの疑問 いきものけはい

小中学生を対象に、夏休み期間に合わせて開催されるシリーズ企画「夏休み企画〈入門〉アートの疑問」。今回は、所蔵作品の中から、「いきもの」が描かれた作品に着目し、都城市出身で日本画家の山内多門や益田玉城、洋画家の坂本正直や遠藤彰子など、約50点の作品を展示する。会話やミニゲームをしながら鑑賞する小学生向け対話型鑑賞や、鑑賞用のワークシートの配布も併せて実施される。

[日程] 7月12日～8月21日

[会場] 都城市立美術館

#### 講座・シンポジウム

Join us(ジョイ・ナス)!〜キョウト・ミュージック・アウトリーチ・ラボ〜

いま、さまざまな場所で行われているアウトリーチ活動。このラボでは、クラシック音楽のアウトリーチに特化して、多角的視点からアウトリーチについて語り・知り・学ぶことができる。8月のVol.2では、神戸市民文化振興財団の柿塚拓真氏(元日本センチュリー交響楽団)がオーケストラによるワークショップ型のアウトリーチについて講演する。

[日程] 8月12日、10月27日、2023年2月20日

[会場] 京都市北文化会館

[問い合わせ] 京都市音楽芸術文化振興財団

Tel. 075-711-2980 高野裕子

<https://kyotoconcerthall.org/outreach>

#### 岡山芸術創造劇場ハレノワ プレ事業 いどばたシンポジウム 2022～演劇で、ダンスで、まちを楽しむ～

2023年9月にグランドオープンする岡山芸術創造劇場。開館1年前の特別企画として、街を劇場にする「劇場へ行こう!」と、関連企画「いどばたシンポジウム」を実施。シンポジウムでは全国で市民と共に創造を続ける有門正太郎(俳優・演出家・劇作家)や大谷燠(NPO法人DANCE BOX代表)、角ひろみ(劇作家・演出家)を招き、「演劇で、ダンスで、まちを楽しむ」を考え、議論する。YouTubeでのライブ配信も行う。

[日程] 8月27日

[会場] 西川アイプラザ5Fホール

[問い合わせ] (公財)岡山文化芸術創造

Tel. 086-225-0154 江原久美子

<https://okayama-pat.jp/>

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

奈良県

### ミュージックフェスト なら2022



上: 世界遺産興福寺中金堂奉納コンサートのステージ/下: ライトアップされた興福寺中金堂。夜間拝観が行われた 撮影: 雨田芳明

#### ●ミュージックフェストなら2022

[会期] 2022年5月15日～6月5日

[主催] ミュージックフェストなら実行委員会 (マスコミや交通事業者などで構成。奈良県文化振興課職員がその事務局を担う)

[会場] 奈良県内の文化施設、社寺、まちなか店舗ほか(全183公演)

#### \*1 なら歴史芸術文化村

仏像等彫刻、絵画・書跡等、歴史的建造物、考古遺物、これら4分野の修復工房を通年公開している文化財修復・展示棟、アーティスト交流や幼児向けアートプログラムを実施している芸術文化体験棟、農産物や工芸品を販売する直売所や、県産食材を使用した料理を楽しめるレストランもある交流にぎわい棟、奈良県全域の歴史文化資源や観光情報を発信し、観光案内を行う情報発信棟、大和平野を見渡せる展望デッキにより、自然を満喫できる屋外体験ゾーンで構成。

#### \*2 今回の社寺コンサート会場

東大寺大仏殿、大神神社大札記念館、矢田寺仮本堂、石上神宮長生殿、室生寺慶雲殿、法隆寺本坊、宝山寺洗心閣、手向山八幡宮境内、大安寺獅子吼殿ホールひび・き、十輪院本堂、唐招提寺僧坊、談山神社権殿、信貴山朝護孫子寺成福院・飛倉館、薬師寺食堂、岡寺書院、壺阪寺大講堂、廣瀬大社境内、丹生川上神社下社境内、金峯山寺蔵王堂、春日大社感謝共生の館、喜光寺お写経道場、元興寺禅室、西大寺興正殿、長谷寺本堂、興福寺中金堂

奈良県では、2021年に文化財を含む歴史文化資源の継承・活用と文化活動の振興を両輪とする「奈良県文化振興条例」や自然・歴史・文化資源の活用を盛り込んだ「奈良県観光総合戦略」を策定するなど、文化と観光を連動させる動きを加速させている。22年3月には天理市に文化財の修復公開機能とアーティスト・イン・レジデンス機能を有する文化観光拠点「なら歴史芸術文化村」<sup>(\*1)</sup>を開設。古都奈良の豊富な文化資源を活用したユニークな取り組みが目まぐるしく注目されている。

その先駆けのひとつと言えるのが、2012年から毎年開催されている「ミュージックフェストなら」だろう。「ミュージックフェスト(Musikfest)」とは、ドイツ語で“音楽の祭典”を意味し、期間中、社寺や美術館や音楽ホール、カフェ、公民館など県内のさまざまな場所でプロの演奏家や市民の文化団体がコンサートを実施。なかでも最大の特徴は世界遺産を含め名だたる名刹を演奏会場にしていることだ。10回目となる今年も、東大寺大仏殿でのオープニングコンサートに始まり、錚々たる25の社寺の境内や本堂、関連施設などで、クラシックやジャズを中心としたライブが行われ、インターネットでも配信された<sup>(\*2)</sup>。

6月5日の夕刻、フィナーレを飾る「世界遺産興福寺中金堂奉納コンサート」の様相を取材した。

コンサートに併せて中金堂の夜間拝観が行われ、開演前に多くの人が木造釈迦如来坐像に参拝。あいにくの雨にもかかわらず、中金堂前庭の仮設客席(約960席。感染症対策で入場制限)は合羽やポンチョ姿の聴衆で埋め尽くされた。開演時間になると、7人の僧侶が入場し、般若心経の読経が始まった。興福寺の五重塔は1426(応永33)年に再建され、本年度中に大規模修理が予定されている。法要後、森谷英俊貫首が、「今回は大規模修理の安全を祈願するための奉納演奏です。そもそも猿楽などの芸能は(仏法守護の)神々に捧げるものがルーツにあります」と聴衆に語りかける。

その後、中金堂の正面に設えられた特設舞台でトロンボーン奏者の中川英二郎とトランペット奏者のエリック・ミヤシロを中心に日本のジャズ界で活躍するミュージシャンたちがスペシャル・バンドを組み、ライトアップされた社寺に囲まれて出演者のオリジナル曲やチックコリアの代表曲『スペイン』で来場者を魅了した。

「第1回から社寺コンサートを開催していますが、来場者から『厳かな雰囲気の中で特別な体験ができた』、『社寺コンサートをきっかけに社寺参りに興味をもった』、『音楽鑑賞への興味が沸いた』という感想を多数いただいています」と、担当者である県文化・教育・くらし創造部文化振興課の篤淵麻奈文化芸術力向上係長は話す。

当然、その実現には社寺関係者の協力が欠かせない。「社寺との調整で最も大切にしているのは、社寺の歴史や成り立ち、大切に受け継がれてきた有形・無形の財産に敬意を払うことです。コンサート会場は各社寺が大切に受け継いできた財産で、使用料を払えば使えるというホール施設ではありません。その意識を出演者やボランティアを含めすべての運営スタッフで共有し、社寺の歴史に沿ったプログラムを考え、出演者は公演前後に拝礼を行うなど最大限の敬意を払って実現しています」。

また、社寺には山中に位置するものも多く、人力でしか機材運搬できないところもある。「特にクラシックでは、音の響きをより際立たせるためにさまざまな調整や工夫をしています。期間中、ほぼ毎日開催する社寺コンサートを同時に企画・実施することは、まさに至難の業。不安に押しつぶされそうな日が続きますね」。

「音楽で、奈良を元気に」というコンセプトの下、当日の会場運営には文化振興課以外の県庁職員や公募のボランティアも多数参加する。コロナ禍で2020年は中止したものの、第1回開催以来の来場者数は延べ110万人。その蓄積から社寺の協力も広がり、ゴールデンウィーク後の5月中旬～6月の“古都奈良”の風物詩として定着している。(田中健夫)